

第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要

◇開催概要

日 時： 平成 26 年 8 月 23 日（土） <第 1 部>10:30～12:00 <第 2 部>13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県

参加者： 224 名

参加団体： 104 団体

ブース出展団体数： 25 団体

テーマ：「つながったから、見えてきた！『マザーレイク』の新しいカタチ」

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:30～12:00

1 開会挨拶

松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

三日月大造（滋賀県知事）

2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議においてコミットメント（約束）を書いた参加者から、この 1 年間、約束を果たすことができたかどうか報告を受けた。

3 活動団体 5 団体からの報告

次に、山・川・湖・暮らし・海で活動する 5 団体からこの 1 年間の活動報告を行った。

① 山：「kikito」（山口美知子）

“びわ湖の森を元気にする kikito の挑戦”

森林整備により伐採された間伐材を買取り、コピー用紙等の紙製品としてオフィスで活用する循環利用の取組について報告した。

② 川：「TOTO(株)滋賀・滋賀第二工場」（田辺宏之）

“NPO 法人と企業の協働による水環境の再生保全

～TOTO 滋賀・滋賀第二工場の環境貢献活動について～”

NPO 法人家棟川流域観光船と TOTO(株)の協働による『森・川・里・湖のつながり再生』プロジェクトの取組について、活動＝人の輪が広がってきたこと等を報告した。

③ 湖：「認定 NPO 法人びわこ豊穡の郷・国際ボランティア学生協会（IVUSA）」

（金崎いよ子、中島正一、○高木駿、谷清隆）

“守ろう琵琶湖！オオバナミズキンバイ除去大作戦”

NPO・企業・地域等との協働によるオオバナミズキンバイ除去の取組について、作業の様子や成果、また今後の課題について報告した。

- ④ 暮らし：「びわっこ大使」（瀧有伽、岩田貴義、堤まいか、竹村佳志之、東江早百合、大谷花、古池流星、長井翔、竹村知那巳）

“2013・2014 年度「びわっこ大使」活動報告”

「ESD のための KODOMO ラムサール」への参加など、琵琶湖の素晴らしさ・大切さを国内外に伝える活動や交流について報告した。

- ⑤ 海：「島を美しくつくる会・愛知県西尾市」（○山崎高志、筒井伸武）

“愛知県・三河湾におけるアマモ場再生活動～佐久島の海をもっと豊かに!!～”

佐久島の一人の中学生が始めたアマモの調査・再生活動。その思いを引き継ぎ活動する島民と島外ボランティアによるこれまでの取組について報告した。

各団体からの発表の後、県より関連するデータ等を提示するとともに、次の3名のコメントータが、県や学術フォーラム等の立場よりコメントを行った。

○三日月大造（滋賀県知事）

○井手慎司（マザーレイク21計画学術フォーラム委員）

○三和伸彦（滋賀県湖北環境事務所長）



4 「びわ湖なう」（小松直樹）

「びわ湖なう」として、この1年間における琵琶湖の特徴的な現象や課題等について、県より報告した。

- ① マザーレイク計画進行管理
 - ・施策の進捗（アウトプット）
 - ・環境の状況（アウトカム）
- ② 最近の琵琶湖情報
 - ・琵琶湖水質の特徴
 - ・水草



- ・オオバナミズキンバイ
- ・魚の状況

- ③ マザーレイクフォーラム
- ・びわコミ会議
 - ・地域・分野別フォーラム

【昼休み】 12:00～13:15

25 団体からブース出展があり、参加者は各ブースを見て回り、出展者と個々に交流した。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15～16:30

1 交流ワークショップ

9 のテーマ別にグループに分かれ、話し合いを行った。

まず、「話し合い」の進め方や留意点等について、司会より説明を行った。

続いて、各グループの担当者が紹介され、担当者は簡潔に話し合いのテーマのポイント等を説明した。

A-1 「若い私たちの環境への思い」（川嶋宗雄）

A-2 「源流管理で環境いきいき琵琶湖！」（吉田栄治）

A-3 「琵琶湖を支える市民参加とは」（上岡瞳）

A-4 「教えて！あなたのまちのタカラモノ」（奥田昇）

A-5 「生物多様性に配慮した企業の CSR」（中村満）

A-6 「琵琶湖・淀川水系での上流と下流がつながるには？」（野田晃弘）

B-1 「地域の中で、NPO と行政と企業の連携をどうつくっていくか」（村上悟）

B-2 「内湖の復活について」（松沢松治）

B-3 「川と人、人と人をつなぐ地域活動について」（仁枝洋）



各グループごとの人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。

その後、メイン会場5グループ、サブ1会場2グループ、サブ2会場2グループの合計9グループにより、話し合いを行った。（80分）



2 私のコミットメント

参加者全員にコミットメント（約束）を記載してもらい、一斉に掲揚。



その後、司会者は数名にコミットメントの内容を尋ねた。

会場からのコミットメントや意見等は次のようなものがあった。

○男性：「現場へ行って、環境を守る活動に年10回以上参加する」

現場に足を運んで、問題を的確に捉えることが大切だと考えている。

○女性：びわこを大好きになり、大切に守っていく！！

琵琶湖で泳いだり船でまわるなど、楽しい経験をすることで琵琶湖を好きになり、

もっと琵琶湖を守りたいという気持ちになると思う。

○男性：「なるべく多くの方に森林を体験してもらおう。」

県職員として、滋賀県の森林の現状を多くの方に知っていただけるよう取り組んでいきたい。

○男性：「山川里海健康診断を広める深める」

愛知県三河湾の再生のため、山川里海健康診断事業を子どもたちとともに取り組んでいきたい。

3 第二部まとめ

各グループの代表者が、グループ内で話し合ったキーセンテンスを発表し、嘉田前知事よりコメントを行った。最後に、各キーセンテンスをみんなのコミットメント「びわ湖との約束 9箇条」としてまとめた。



○「びわ湖との約束 9箇条」

1. びわ湖に親しんで好きになろう。そしてたくさんの人に大切さを伝えよう。
2. びわ湖の環境は県民みんなの生き方の水鏡
3. みんなが主役 人づくり 環境教育 行政支援 M・O・H マインド
4. 五感で発見！世代で発見！親・子の「環境循環」
5. 「社会・地球の維持可能な発展への貢献」
～CSRの推進により「企業に」「生き物に」「地球に」良し～
「企業」ー地域から信頼される 「生き物」ー生息環境が増える 「地域」ー緑が増える
6. もう既につながっている。そのことに気付いてもらう“しかけ”が重要
7. 地域の中に居続けるコーディネーターの存在
8. 今の暮らしの中で、山・川・田んぼ・びわ湖とつながる新たな内湖をみんなで考える
9. 地域住民も半分、行政も半分、お互いに汗をかき「食べる」「楽しむ」部分を取り込む

司会者より閉会が述べられ、第4回びわコミ会議は終了した。 (16:30)